

めだかの学校だより

令和6年2月1日
第122号
学舎：周智郡森町
「一宮総合センター」
事務局：静岡県磐田市
家田 529-20
TEL:0539-62-6691

校長訓話

第一二二回 校長 小野 里美

皆様こんにちは。

この原稿を書いている今は、元日の能登半島地震から半月が経ったところです。まず、震災で亡くなられた方々のご冥福を心からお祈りいたします。また現在も余震や寒さ、不安と闘いながら暮らしていらっしやる皆様に、心からお見舞い申し上げます。今年こそ安穏な年になりますようにと願ってスタートした矢先の震災。一方、世界では何の罪もない多くの人々が傷つく戦争が続いています。指導者の間違った思想のせいで、今まで隣人として交流してきた人たちが、ある日を境に敵として戦わなければならぬ。豊かな国土が、生活の場が、破壊され続けている。なんと理不尽なことでしょう。一日も早く戦争が終結してほしい、世界が平和になってほしい、そう願わない日はありません。さりとてちっけな自分一人に「平和のために」何ができるのか…そう思っ

しまうのですが、私の尊敬する師匠は、たくさんメッセージを発信してくれています。

平和は遠くにあるのではない。一人の人を大切にすることだ。

お母さんを泣かせないことだ。自分と違う人とも語り合っていくことだ。

喧嘩があっても賢く仲直りするこ

とだ。そしてまた美しい自然を護っていくことだ。

豊かな文化を育てていくことだ。人の不幸の上に自分の幸福を築かないことだ。

喜びも苦しみも皆で分かち合っていくことだ。

わが友を幸福にできる人が幸福の博士なのだ。

【池田大作・詩「平和を！平和を！ここに幸福が生まれる」から】

人には、さまざまな違いがある。多様である。しかし、その差異を越えた共通項がある。

それは、皆がこの地球に住む、同じ人間であるということだ。そして、生老病死を見つめながら、誰もが幸福であることを願ひ、平和を望んで、懸命に生きているということだよ。その共通項に立てば、共有すべき『思想』に行き着くはずだ。

それは、生命は尊厳なるものであり、誰にも生存の権利があるということだ。幸福になる権利があるということだ。だから、絶対に戦争を許してはならない。

【小説『新・人間革命』第21巻「人間外交」から】

私たち一人一人が「平和」を信念として自分の振る舞いを変え、人への接し方を変えていくこと、それを一人から一人へと広げていくことが、いつか平和への大きなうねりになっていくと信じて行動していきたいと思えます。



めだかの学校伝言板

第122回めだかの学校を開校するので出席しなさい。

校長／小野里美

教頭／鈴木計芳

用務員／中村明男

給食係／※給食は取り寄せです。

<学舎> 静岡県周智郡森町一宮 3150

「一宮総合センター」

※コロナはまだ収まっています。

手洗い、消毒、マスクをして3密は避けて下さい。

開校日／令和6年3月2日（土）正午～

受付／大場敬子・大橋町代・榊原幸雄（後見人）

31期通年テーマ：『原点に帰ろう…建学のこころの精神に』

今回のテーマ：《そ～とのぞいて見てごらん…》

<時間割> —今回は社会科特別授業—

●1時間目 社会

「…???…」竹野昇先生

●2時間目 社会

「…???…」芦川和美先生

●3時間目 社会

「…???…」八木義弘先生

●給食は取り寄せです。

PM3:15開校

めだかの動き

泳ぎ回るめだかたち

■遠州常民文化談話会の民俗誌『敷地の民俗』の刊行・報告会

遠州常民文化談話会では、磐田市敷地地域の自然環境や景観、固有の伝統・文化を3年にわたり調査。地域社会がどのように現在につながってきたのか、そして未来につながるのかを会のメンバーでそれぞれ調査研究し、民俗誌『敷地の民俗』を作成・刊行することが出来た。その刊行・報告会を12月16日の土曜日、豊岡東交流センターで開催した。

内容は、第一章環境／第二章生業／第三章戦争／第四章交通・交易（秋葉道）／第五章衣・食・住・家庭生活／第六章年中行事／第七章人生儀礼／第八章信仰／第九章祭礼と芸能（遠州大念仏）／第十章伝説・民話からなり、四章と十章では会員である大島たまよメダカが、五章では今村純子メダカが、七章では袴田克臣メダカが執筆者として関わっている。第二章の生業では、鈴木正士メダカが大平の農林業者として写真入りで掲載されている。内容も正士メダカの地域における活動や「猫の手俱樂部」の鈴木厚正さん達の長年にわたるボランティアとしての貢献も写真付きで載っている。

『敷地の民俗』は読み易く、敷地地域の有様をのぞき見ることが出来る。また遠州常民文化談話会は毎月1回例会を継続。2008年には長年にわたる地域文化への貢献が認められて、静岡県地域文化活動賞特別賞を受賞。今までに『山中恭古 見付

次第』民俗誌『水窪の民俗』『佐久間の民俗』等も刊行している。『敷地の民俗』定価は1200円。

このようにメダカ生が執筆や内容にかわりがあるのは嬉しい事ですね。本誌の注文は大島たまよメダカ(090・3456・1725)まで。(バラメダカ)

■岐阜県岩村町と掛川市横須賀(当時は大須賀町)との交流

40年前に遠州横須賀クラブが主になり、女城主の町、岩村町と交流が始まりました。風揚げ大会、三熊野神社大祭、赤ずきん苺摘み村への岩村中学生の苺の苗の植え付け体験。岩村町へは風造り教室、産業祭への参加でした。両町共にバスの団体客でなく、家族で一日ゆっくり町を楽しんでいた。10名ほどが私を含め脱会しました。

先日交流が途絶えていたので、30年振りに家内と行き復活してきました。岩村町は行き届いた古い町並み保存、電柱の地中化や、商店の増加を確認いたしました。大須賀は50店あった商店が30店近く廃業して、水のきれいな町と4店舗あった豆腐店が0に、本屋も2店が廃業になりました。ちっちゃな文化展にはたくさんの方が来ますが、商店が無いので買物客はほとんど有りません。岩村町は今や1日平均500名の客が訪れて町の散策と買物を楽しんでます。方向性の違いが非常に大きいです。

また、現代版女城主の島田市の染谷市長が協力してくれることになり、市役所に岩村町のパンフレットを置いてくれました。市長は岩村町の下田歌子女子設立の、実践女子大卒業で、市長の座右の銘が岩村町出身の言志四録の作者佐藤一斎の「春風秋霜」です。交流復活と島田市長の協力を得

て本当に良かったです。(鳥山剛メダカ)

『人・ひと・ヒト…だより』



●浜松市引佐町の石野省三メダカ。昨年度の世相漢字は「税」が選ばれた。世の中は不穏な空気がながれ、出口が見えないのが悲しい。新しい年を迎え、わたしは「泰」を指すことにした。年相応に前を向き、心の力で喜びと感謝に振り替えていくことに！貴方にとって良い年になりますように祈ります。だって。今年の元旦、獅子ヶ鼻公園での初日の出。みんなでバンザイのあと、「今年はいいい年になるゾー！健康でいきましよう！」といい気分呼びかけた。いいが、同じ日の午後4時ごろ能登半島の大地震と津波と火事。被災に合われた人たちのことを思うと、ただただ祈るしかない…。

●藤枝市の小嶋良之メダカ。2023年は激動の年でした。7月、9月、11月に緊急入院し、病室にパソコンとiPadと携帯を持ち込み、仕事をしながらの入院生活でした。その入院と入院の間に母を見送りました。91歳でした。私は65歳となり、年内の退職も決まり、15年続けた地域情報誌「むるぶ」の編集長と、毎週放送のFM島田の「共立情報ランチ」のパーソナリティも同時に引退。今後はライターとして

活動予定です。今回の言霊は、在職当時のリクルートの「旧社訓』『自ら機会を創り出し機会によって自らを変えよ』。創業から8年目に、創業者・江副浩正氏によって作られたもの、このプレートが常に机の上であり、リクルート卒業後も、私の人生訓のひとつです。だって。(内容省略あり)。いや〜大変でしたね。65歳で会社を退職し、新たな道に歩み出す。まさに言霊そのものです。

●浜松市浜名区の奥宮教生メダカ。「続ける」ことの重み、尊さを多少なりとも知る身としては、「めだか」が生き続けていることに、心より敬意を持っています。と思いつつ会費支払いを失念していました。誠に相済みません。最近7〜12kmを歩いています。(大雨は除く)。速さは「1km10分」です。真夏は汗びっしょりですが、今は汗がほとんど出ません。季節の変わりが木々や草花だけでなく、己れの身にも出ています。お元気で過ごして下さいませように、感謝。だって。嬉しいですね。ヨイショされると、豚もおだてりや木に登る、の如く、またまた頑張っちゃいそう。(笑)。

●浜松市引佐町の大谷義房メダカ。近況報告で、浜松市の行政区、7から3区に再編。本年から引佐の北区は、浜北区と統合し浜名区となり新たなスタート。昭和20年代までは都田・浜北・鹿玉まで引佐郡、なんとなく懐かしい、だって。それにしても7区を3区に、職員も50人ほど減らすとか、大丈夫ですかねえ。今回の能登地震のことを思うと、天竜区のように過疎化の多い所もあるのに、心配になります。ハイ。●浜松市中央区の鈴木偉代メダカ。12月の「めだかの学校」終わってホッとしました。コロナが落ちつき、いつもの生活が徐々に戻ってきたところに能登半島の地震。いつ何が起きるかわかりませぬ。や

りたいた事を精一杯頑張った、この1年を過ぎたいと思います、だって。第121回めだかの学校の教頭先生、司会進行お疲れさまでした。でも楽しそうでしたヨ。(笑)。

●浜松市中央区の白尾恂メダカ。浜松市の高齢者歯科検診の連絡が来ましたので、大人になって初めて歯医者に行き検査を受けました。そしたら虫歯らしい処が1カ所あるとのことで治療を受け、何度かの歯石などの掃除をして頂きました。浜松市の8020運動で、現在31本の歯で浜松歯科医師会から表彰状を頂きました。歯の大切さを改めて感じました。皆さんも歯の大事さを認識されたら寿命も更に延びるかな？だって。凄くいい！。高齢者になって初めて歯医者に行った。虫歯が1本。表彰されたなんて。

●東京・東久留米市の菅原欽一メダカ。「めだかの学校だより」ありがとう。正土さんが病魔に取り憑かれたようです。武史さんといい、鈴木姓の人は立派な人が多いのに悲しい。僕はただ祈るしかできません。榊原さん、健康でいてください。元気でいることがいちばんの社会貢献です、だって。そうですね、お互いの病を伴としながらも歩いて健康を維持することが大切ですね。私は1日3000歩以上歩くようにしています。お金もかからないし健康にもいいし(笑)。

●浜松市中央区の埋田千聡メダカ。「おかえり」と待つてくれる友達がふるさと各地にできました。待つていてくれるお陰でパワーがわいてきます。今年も三遠南信各地を歌と共に!!だって。うわー凄く今年もパワー全開ですね。着物姿も素敵でございますよ。めだかの歌唱指導もよろしくね。●磐田市の小野里美メダカ。「めだかの学校」母と一緒に参加させていただきありがとうございます。「校長」不安ですがチャ

レンジします、だって。3月122回の校長。「楽しくやつてくれればいいですよ。鈴木計芳教頭先生」。気楽に気楽、私にまかせて、とか。

●静岡市の西島朋子メダカ。昨年は病気に振り回され、何もしないうちに1年が過ぎました。足を引きずりながらの辰年スタートではありませんが、やる気が満ちてきました。長く続くめだかの学校素晴らしいです。私はなかなか参加できず、「ごめんさい、だって。病気大変でしたね。めだかの学校、まだまだ続きそうですので、参加できるときに参加すればいいですよ。のんびりと待つてます(笑)。

●埼玉県所沢市の木村智子メダカ。いつも一筆添えてのおたよりありがとうございませう。この一時間、いや集まると膨大な作業をして下さっていることに刺激をもらいつづけ、まだまだやれる、がんばれると思えています。1年に1回きりですが、またあれこれ送ります。浜松でやっているみどりの人材支援プロジェクトは、公園や緑地を使ってまちづくりをしたい人と出会い、ネットワークをつくっていくプロジェクトで、何かいいところに持つていきたいと思っています、だって。いや〜いいねえ。6月のめだかの学校はぜひ先生でやって欲しいね。決めちゃった、と。

●磐田市の鈴木祐之メダカ。色鮮やかな龍の絵に、今年も学校の参加努力してみますね、だって。薬局で薬剤師さんがいないと開店できない中で、参加努力してみますね、嬉しいね。

●袋井市の大場敬子メダカ。昨年はあまりめだかへ行けず残念でした。でも混迷する世界情勢について学ぶべく、東京、大阪に足を伸ばして貴重な勉強ができました。今年めだかにもしっかり行けて、良い年になりますように、だって。昨年は貴重な

い勉強をしたようですね。年賀状の文章からひしひしと感じます。それにしても政治家の皆さんにはもっとしっかりして欲しいものですね。頑張っていると思うけど...

●浜松市中央区の水村春江メダカ。「ポツポツとスーツの衿のピン跡獅子の奉仕の日々懐かしき」(ロータリークラブの会員かな?写真あり)。「日々新た 我に歩めと椿咲く」と、短歌と俳句を披露しつつ、いつもお世話ばかりで...、だって。そうかも。(笑)。

●小田原市の溝口久メダカ。昨年10月22日に小田原市観光協会長の外郎さんから6人で愛媛県にある大洲城の天守閣で城泊。小田原の我が家も3期に分けての庭の大改造も終えました。仕事では、茨城県境町参与、福岡県築上町地域づくりアドバイザー、神奈川県松田町官民連携担当に加え、町長復帰により静岡県小山町の参与も務めています。このところ人生最高の年がつづきます、だって。いやあまさに人生満喫だね。(笑)。

●島田市の池谷俊裕メダカ。このところガーンも少し休憩のようですが...。今春は浜名湖花博20周年記念が開かれます。花博のお手伝いができるのもこれが最後になるかも...、だって。20年前は、花博ボランティアの会の会長だったよね。覚えてますヨ、ハイ。

●埼玉県草加市の藤田久枝メダカ。一昨年12月にめだかに出席。昨年後半はガンの治療で2回入院したためと抗ガン剤の影響(副作用)で反応がひどくダルかったり歩けなかつたりで無理でした。先月CTでガンが無くなったと確認できましたが、抗ガン剤治療はせずに「笑い」と「食事」でガンにならない身体づくりを考え、今年はその目標にします。長い年月お世話

になりました。「めだかの学校」を卒業させて頂きたく、だって。いやいや潤ちゃんとチンドンコンビ、こちらこそ大変お世話になりました。ありがとう!

●周智郡森町の榊原淑友メダカ。(先ずはおこわり、だいがカットしてごめんね)。お陰様で無農薬の肥料も入れない農業に取り組んで5年となりました。昨年、お茶は苦いものだという常識が、なんと生菜で食べても苦みがなく甘味なお茶となりました。物理学者の城先生はこの栽培方法を「天然農法」と名付けて下さいました。是非皆さんに天然農法のお茶や野菜を体感して戴きたい、だって。資源のない日本の大切な資産は海と山に囲まれた国土と人材です。地球をリード出来る人材を育てることが必須です、とも。

《寄付》
●掛川市の横山忠志メダカから、第121回めだかの学校の写真データと一緒に、84円切手106枚、10円切手27枚。私は使わないので、学校通信用に使うて下さい。寄付ですと、送ってくれました。嬉しいですね。第122回めだかの便りは、この梅の花の切手です、ハイ。
●浜松市のFさんが多額の寄付をしてくださいました。気持ちだけお返しさせていただきますが...。いつもいつもありがとう!

××× ×××
もっともつと伝えたいが、紙面の都合で今回はこれまで。お手紙ちょうだいね。
《お知らせ》めだか春秋は今回お休みとさせていただきます。ご了承ください。

■事務局だより

大寒をすぎだ
いぶ春めいてき
ました。庭の2m
ほどの梅の木に
白い蕾がびっし
り。今にも咲きそ
うです。皆さんは
いかがお過ごし
でしょうか？。初
日の出を拝みな
がら、『今年はい
いに：』と祈り
ました。いつ何時
何が起きるか分かりません。その日の午後
4時10分ごろ、能登半島を中心に震度7
の大地震。多くの家屋が倒壊し、津波や火
事、地すべりなど交通網もズタズダ、停電
や断水…。200人以上の人が亡くなるな
ど、大災害となつてしまいました。被災に
あわれた方々を思うと…ただただ祈るし
かないですね。



さて、第121回めだかの学校は令和5
年12月2日、校長秋山勝則、教頭鈴木偉
代、用務員田村進治。息もぴったり。今回
は校長訓話5分拡大、授業の音楽は10分
ひろげて30分。新入生は山下愛仁メダカ
と、久しぶり出席の若尾和孝メダカ。共に
先生も。給食は榊原淑友舎監のご手配で美
味しいお弁当。好評につき次回も依頼済み。
最初に校長訓話。秋山校長、めだかの便
りで、事前に不登校児童
増加について意見を募
集。そつとしたことを含み
つつ、不登校児童の現状
を資料を持って問いか
ける。親や学校、先生な
どの意見も出るが、現実
は多種多様で難しい問

題。変化の時だ、と。事務局からは今回の
便りの5つのポイントは、意見募集とマン
ガのバラバラ、体験談、めだか春秋の正土
さんのこと、出席者全員の写真：いかがで
したか？。それなりに工夫しているのです
が（笑）



授業は、1時間目大
杉昌弘先生、プロジェ
クターを使って、新婚
らしく「わたしの幸せ」
から始まって新婚旅行
の予定が敷地川などの
水害被害とぶつかって
行けず、社会福祉協議
会のボランティア対応
で多忙など、社協の活
動を語る。2時間目の
山下愛仁先生。航空自
衛隊を定年退職し磐田
市の危機管理官を自己
紹介のあと、伝言板
が「地球を守る」とな
っていたので、戦争など
宇宙空間のことや、地
域防災については声か
けなど地域コミュニ
ティの重要性を語る。

3時間目の音楽は、埋田千聡先生が歌を指
導し、若尾和孝先生が伴奏を。「母さんの
歌」「バラが咲いた」「ふるさと」「いい日
旅立ち」など10曲ほどをみんなで歌う。
いいねえ、バラバラのところが…。（笑）
私語飲食全て禁止の時期三役発表。校長
小野里美、教頭鈴木計芳、用務員中村明男。
小野校長を支える構図。楽しみなだね。最後
は、埋田先生の指導のもと「今日の日はさ
ようなら」を大合唱して再開を約束しつ
つ閉校。

第122回めだかの学校の職員会議を、



1月13日（土）10時
から学舎で開く。出
席者は小野校長、鈴
木教頭、中村用務員
の三役と、石野省三、
伊藤英雄、松本芳廣、
榊原淑友、埋田千聡、
鈴木真弓、事務局榊
原幸雄の10名。第1



22回のテーマと授業について、いつもな
がらあてもないこうでもない…。31期
の通年テーマが『建学の精神』で、第12
0回のテーマが「誰が生徒で先生で…」、
第121回が「みんなでお有意義つて…」
であることから、それに絡めて第122回
は「そつとのぞいて見てもらん…」に決
める。差し入れのドラヤキを食べながらの休
憩のあと、授業について話し合う。「そつ
とのぞいて…」は好奇心、のぞき見ではな
いですよ。（笑）。と言うことから、元高校
教師の目からみて…、女性の目からみて…。
元新聞記者の目からみて…。1時間目竹野
昇先生、2時間目芦川和美先生、3時間目
八木義弘先生に決める。科目は社会、内容
はそれぞれの見方や好奇心の捉え方が違
うだろうから「…??」に。科目も内
容も一緒だから『社会科特別授業』としま
した。なんと偶然にも3人は市議会議員。
「ちよつと心配だよなあ」の声もあるが、
三者三様、臨機応変に面白く楽しくやってく
れることを期待して!!ですね。（笑）。ま
た村松達雄さんの話を聞きたいとか、木村
智子さんのガーデニングの話や歴史の話
も聞きたいとの話もあり、村松達雄さんは
32期の期初特別授業で、木村智子さんの
ガーデニングは6月に予定しています。ハ
イ。あ、そうそう、埋田千聡さん、「始め
の頃は緊張してめだかのことは良く分か
らなかつたけど、この頃はなれて歌だけ

なく話もしたい、だって（笑）
（事務局バラメダカ）
■第31期の受付を始めています。
第31期は、令和5年9月1日から令和
6年8月31日までです。まだ未提出の生
徒は至急出してね。自主退学にならないよ
うに、待ってまう。入校を希望される方
がいましたら事務局まで、申込書と資料送
ります。『若い人がいいなあ、声がけし
て!』だって。

■今回も遅れてごめんなさい。
いつもご協力の石野省三メダカ、伊藤英
雄メダカ、秋山勝則メダカ、水島加寿代メ
ダカ、大島たまよメダカ、埋田千聡メダカ。
121回の写真提供横山忠志メダカ、ま
めてくださる間瀬亮太メダカ、発送など
お手伝い榊原明美さんありがとう。感謝!
■めだかの学校だよりの原稿を!
次回の発行は、令和6年5月1日予定。
締切4月15日です。みなさんの日頃の活
動をお手紙・FAX・LINE・FBで。
メールの方は、
《navun_ft00@gmail.com》
間瀬亮太090・5009・0986です。
（アドレスが変わりました。まだ昔のアドレスも可。）

■めだかの学校の事務局
〒438・0105 静岡県磐田市家田5
29番地20 榊原幸雄方 TEL 05
39・62・6691（FAX同じ）
※学舎「一宮総合センター」周智郡森町一
宮3150。電話 0538・89・77
30 開校日の午前11時以降のみ使用可。
携帯 080・1612・9130

